

[岩本] 会議録（2019年度第1回認知症対応型通所介護 運営推進会議）

作成者 小川健太郎

参加者	小川健太郎, 高橋誠, 川邊飛馬
欠席者	
開催日	10/28 (月)
開始時刻	10:30 ~
終了時刻	11:45
開催場所	会議室1
議長	
書記	小川健太郎
外部参加者	●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様 ●●●●様
議題	1、挨拶・自己紹介 2、事業について (1) 2019年度事業報告 (上半期) (2) 今後の取り組み、課題 3、事例・活動紹介 4、質疑及び評価
決定事項	
保留事項	
会議内容	1、挨拶・自己紹介 2、事業について (1) 2019年度事業報告 (上半期) ○事業計画の進捗状況について 体制に変化があり、安定するまで時間がかかったため進められていないところが多くありました。「職員やご家族とのコミュニケーション」については、職員間では短時間のミーティングを行い、ご利用者の情報共有をし統一したケアを行いました。ご家族様については見学会など開催できればと思っておりましたが、これまでは実施できていません。電話での相談や、来所時にご家庭での状況をお伺いし、声かけの方法などアドバイスをさせていただきました。 ○私たちの認知症対応型デイサービスで大事にしているところ ・ご利用者様にとって落ち着ける場所としてのデイサービス ・その方の特徴、精神状況の変化を観察し、原因を考えてケアをします ・その方の得意なこと、役割を大事にします ・ご自宅に帰ってから困らないよう過ごしてもらうことを心がけています ○認知症対応型デイサービスのデータからみる概要 ・登録者数は昨年度より多少増加していますが、ほぼ横ばいでした ・延べ利用者数は、全体としては徐々にご利用者数が増加しており、通われていた方の増回の影響がありました ・介護度は1~3の方のみで、ご入浴をされている方がほとんどです。 ・平均年齢は86歳で、90歳を超えている方が半数近くいらっしゃいます

(2) 今後の取り組み、課題

- ・活動ボランティアをうまく活用することで、レクリエーションや認知症ケアの充実を図っていこうと思います。
- ・i-padを活用してご利用者の様子がわかるよう画像をまとめ個人ファイルを作るなどし、ご家族にデイサービスでの様子を伝えていきたいと思っています。
- ・見学会の開催を企画したり、定期的な電話相談を行い、ご家族とのつながりを持てる機会を持ちたいと思っています。

3、事例・活動紹介

○認知症のご利用者とお様の二人で暮らしている方の事例について報告

- ・ケアマネジャーやほかのサービス事業者との連携…ご自宅で転倒などがあったときに、他サービスやケアマネジャーに報告をし、環境を確認してもらい福祉用具の導入などにつなげています。
- ・排泄の対応や工夫…ご自宅に戻って困らないようできる限りのことをデイサービスで対応し、うまく排泄できるよう働きかけを工夫しました。
- ・入浴形態の変更…本人が落ち着いて快適に入浴できるかお試しをさせてもらいチェア浴で入浴できています。
- ・コミュニケーションの工夫について…意思の疎通が難しい方でしたので、言葉でうまく伝わらないときは字を見せたり、英語が得意な方だったため、英語で質問をして答えてもらったり、関心を引く話題を伝えることで会話をしたりしています。
- ・今後の過ごし方について
10月のサービス担当者会議で病状が重く治療が難しい状態であると、訪問診療医より話があり、奥様のご意向を確認しご自宅で最期まで過ごしていくことを確認しました。医師やケアマネジャー、他サービスとの連携、奥様や本人の意思を尊重しながらデイサービスでの過ごし方を考えていきたいと思っています。

○活動紹介

プロジェクターの画像を見ながら、活動の様子を報告しました。
昼食の場面ではご利用者の希望からメニューに漬物が追加された事例を紹介しました。

4、質疑及び評価

●●様

Q：「事例について、今後、ご家族との情報共有や相談はどのようにしていくのですか？」

小川

A：「今までは奥様から連絡をいただくことが多かったのですが、今後は定期的にデイサービスの方から電話での連絡をしてご自宅での様子などを伺いたいと思っています。また連絡ノートでこまめに報告をしていきたいと思っています。」

●●様

「ご家族がデイサービスから帰ってきて、ご利用者本人と話をするとき、本人が疲れてしまっていることがあるため、デイサービスでの様子を聴くときにワンクッション置いてから

話をするとういと、ご家族にアドバイスをしたりしています。」

「ご自宅に帰っても困らないようにとのことで、事例での排泄の対応は、ご本人の意思を尊重しながらのもので、素晴らしいと思います。」

「デイサービスと地域・ご家族のつながりについては、行事等に参加をしたり、認知症カフェなどのご家族を招待できる機会を作ったりし、顔の見える関係を持てるとういと思います。」

「認知症のケアとして、思い出の品などをご家族から預かり、回想法に取り組んでみてはどうでしょうか。事例の方についてもより深くその方の語りを引き出せると思います。」

●●様

「以前より登録者を増やすのが難しいと話がありましたが、地域の方を見ていて、その方には必要ではないかと思っても、（認知症という名前がつくと）ご家族には“認知症対応型デイサービス”は勧めづらいつと思ったことがありました。その方が現在、こちらに通い始めたと聞き安心しました。」

●●様

Q：「事例の方について、認知症対応型デイサービスを利用するにあたって、周辺症状があったのでしょうか。ADLの低下については認知症によるものか既往症によるものかどちらだったのでしょうか。一般のデイサービスでなく、認知症対応型デイサービスを利用すべきか、私も迷うことがありますので、判断についてお聞かせ下さい。」

小川

A：「特別ご家族がお困りになるという症状はなかったと思います。ADLの低下はどちらかというとな年齢的なものだとして認識していました。」

●●様

「かかわっているご利用者で、こちらのサービスを始めるときにどちらがよいか迷ったことがありました。その時、デイサービスの担当者に相談をしたり、主治医からの意見を頂いて、決めた経緯がありました。」

小川

A：「一つは、その方のペースで落ち着いて過ごすことができるかということにあると思います。一般デイではある程度、全体的に動いたり、ご自身で参加の意思を示したりということが必要になってきます。精神的に不安定な方もいらっしゃいますので、職員のケアにより、そこで落ち着いて過ごすことが、ご自宅での安定にもつながってくると考えています。」

●●様

「普段主人はデイサービスから帰った後、何も話さないものですから、今回このような機会を得て、どんな風になっているのかがわかりよかつたと思います。」

小川

「連絡ノートやこれまでの電話でのやりとりではお伝えしきれないところがあったと思います。今後は定期的な電話連絡や画像を活用しての報告などすすめていきたいと思つます。」

●●様

「千代田区では他にはない併設型の認知症対応型の事業所で

あり、地域の大事な資源ですので、今後もさらに取り組みを進めていってほしいと思います。」

センター長 高橋

「当認知症対応型デイサービスは、昨年度と比べすでに利用している方が利用の回数を増やし、延べ利用者数も増えていっています。岩本町ほほえみプラザとしては、フェイスブックやインスタグラムを行っており、後者は登録していただけの方が増えています。地域とのつながりに関しましては、そちらの情報も載せていますので、ぜひご覧いただければと思います。」

以上

資料

次回開催予定

資料1~5

資料6~10